

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	教育学部
大項目	7 国際交流
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況（院）

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 全学的な国際交流プログラムへの学生の参加を促す。	→ 「全学的な教育プログラムに基づいた国際教育・協力の基本方針の学部構成員への開示」 「学生へのPR活動と個別相談の実施」	B
2. 教員の国際的な教育研究交流を促す。	→ 「学生へのガイダンスなどでの説明機会の頻度」	C
3. 国際理解に関する学部開講科目「多文化共生教育」「国際理解」などの履修を学生に奨励する。	→ 「教授会メンバーの国際的な教育研究交流の頻度」「多文化共生教育」「国際理解」の履修者数	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目7.0.1	(方針) 全学的な国際交流プログラムへの学生の参加を促す。教員の国際的な教育研究交流を促す。 (現状説明) 基本方針を教員ならびに学生に周知徹底している。
☆ 小項目7.0.2	(現状説明) 国連セミナー 参加者1名、クィーンズ大学英語研修 参加者1名、ベルギーリンブルグ・カトリック大学教育学部生(3名)との交流。「国際理解」履修者41名。ネパール文化交流旅行9名(聖和キャンパス国際交流委員会が主管プログラム) アメリカ、アラバマ大学、ウィットワース大学への研究出張 教員各1名。
☆ その他	

《特定6項目データ》

本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【教育学部】			単位	2005	2006	2007	2008	2009	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	/	/	/	/	—		
指標2	国際交流協定締結国数		国	/	/	/	/	—		
指標3	海外からの学生の受け入れ	国 数	国	/	/	/	/	—		
		外国人留学生	正規	人	/	/	/	/	1	外国人留学生÷在籍学生数
			交換	人	/	/	/	/	0	
		外国人留学生 在籍学生比率	正規	%	/	/	/	/	0.3	
			交換	%	/	/	/	/	0.0	
その他 (セミナー等による受け入れ)	人	/	/	/	/	/	—			
指標4	海外への学生の派遣	国 数	国	/	/	/	/	—		
		人 数	長期	人	/	/	/	/	0	海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
			短期	人	/	/	/	/	2	
		在籍学生比率	長期	%	/	/	/	/	0.0	
短期	%		/	/	/	/	0.6			
指標5	人的国際学術研究交流 (受け入れ教員数)	長期	人	/	/	/	/	0		
		短期	人	/	/	/	/	0		
指標6	人的国際学術研究交流 (派遣教員数)	長期	人	/	/	/	/	0		
		短期	人	/	/	/	/	6		
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	/	/	/	/	0		

注) 正規、交換について

正規とは学位取得目的、交換は正規以外とする。

注) 長期、短期について

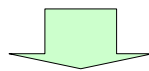
指標4: 1学期以上を「長期」とし、1学期未満を「短期」とする。

指標5・6: 1年間以上を「長期」とし、1年間未満を「短期」とする。

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目7.0.1	
☆ 小項目7.0.2	聖和人文学部主催JYA(Junior Year abroad) 制度におけるラオスへの半年間留学今年度2名
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目7.0.1	全学的な国際交流プログラム参加学生を増加させるPR活動を行う。
☆ 小項目7.0.2	教科教育等国際学会のないものもあるので、国際学会に所属している研究者の積極的な参加を促す。
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目7.0.1	
☆ 小項目7.0.2	全学的な国際交流プログラム参加学生を増加させる。海外での学会出張や研究交流を増加させる。
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目7.0.1	全学部的な説明会を行う。授業、チャペルなどを利用して全学的な国際交流プログラム参加を促す。
☆ 小項目7.0.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他
(自由記述)

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○学部性格からすぐれて国内的かもしれないが、学生の視野を広げることにもつながるし海外の大学との交流も積極的に検討されることが期待されます。

【学内委員】

○小項目7.0.1の説明において記述されている方針は行動目標や姿勢ではないでしょうか。教育学部の国際交流方針をお示ください。

○小項目7.0.1の現状説明は、小項目7.0.2での説明だと思います。

○各小項目、目標それぞれについて適切に評価されています。

○学年進行中のため特にありませんが、教員の国際交流はどうでしょうか。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

7.0.1「現状説明」の(方針)部分を下記のように修正。

★ (方針) 文部科学省、厚生労働省の指導内容などを理解し、教員、保育士の養成を図ることが学部の主目的であるが、海外の教育事情を知ることも教育全体考える上で必要と考えるので、全学的な国際交流プログラムへの学生の参加を促す。また海外の事情を知るが必要な教科を担当している教員の国際的な教育研究交流を促す。

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

7.0.0.S1	協定校と相互交流数(学生・教員)
7.0.0.S2	国別国際交流協定締結先機関数
7.0.0.S3	人的国際学術交流数

<個別的な指標>
